

感染力強い新種白癬菌 トズランス菌に注意

中学校体育武道必修化で拡大の恐れ

トズランス感染症が日本でまん延し始めて10年以上が経過。当初は格闘技選手間での集団感染が特徴的だったが、徐々に低年齢層や競技とは無関係の患者が増え始めた。2012年度から中学校体育で武道が必修化され、同感染症は学校保健における新たな問題となっている。予防法と学校保健における留意点について猿田隆夫・猿田皮膚科診療所所長に聞いた。

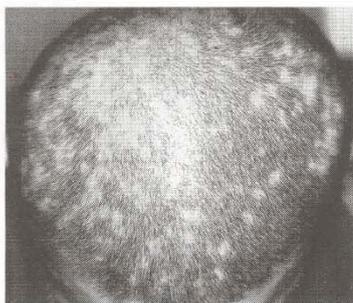
猿田皮膚科診療所
(日本臨床皮膚科医会・学校保健委員会委員)

猿田 隆夫所長



トズランス菌は流行地ポルトガル、スペインから中南米を経て米国に持ち込まれ、日本では01年に確認された新種の輸入白癬菌で体の接触により感染する。一般の白癬菌に比べ感染力が非常に強いのが特徴だ。柔道やレスリングなど格闘技の国際試合で欧米の選手から感染した日本の選手が、国内の試合や練習をす

頭、顔、首、上半身に出やすい 練習・試合後よく洗い予防 治療は抗真菌薬の外用や内服



トズランス感染症にかかった高校生柔道部員の頭頂部。斑状の脱毛斑が多数みられる
(参考文献：猿田隆夫、高知市医誌、第9巻第1号、112、2004)

ることでトズランス感染症が徐々に拡大した。同感染症は足には感染しにくく、格闘技の選手が肌をふれあう頭、顔、首、上半身などに症状が出やすい。皮膚に感染すると深い紅斑が出現する。

「最も特徴的な症状は頭部白癬で、赤く腫れたり頭皮から膿が出て脱毛することもあり急に円形脱毛症になったと言って受診する学生もいます」と猿田氏は語る。

治療は軽度の体部白癬には抗真菌薬の外用だが、生毛部へも及んでいたり、症状がなくても菌が証明されるキャリア状態の場合は抗真菌薬を内服する。

「合宿生活をしている体育系部員には症状がない保衛者が多く、予防投与が必要な場合が少なくありません。頭部には抗真菌薬入りのシャンプー、リンスを3か月以上使用させ、ヘア

①試合に出られなくなる
と感染を隠している選手がいますが、一人でも感染が発覚したら指導者はその集団全員の検査と治療が必要だと認識しなければなりません」

12年4月から中学校で武道が必修化され、一般の生徒が柔道等を体験する機会が多くなった。

「今のところ中学生の間でトズランス感染症が急増しているといった報告はありません。しかし、この年代を中心とする発生状況に注目していく必要があります。受診や相談など皮膚科医が積極的に関わっていかなくてはならないと考えます」

認をする必要があります」

予防策は①練習や試合が終わったら、できるだけ早く入浴またはシャワーで体や頭を石鹸で洗う②練習・試合で着た衣類はよく洗濯する。帽子、タオル、シャワーなどの貸し借りはしない③練習前後に道場・体育館の床、マット等を念入りに清掃する④疑わしい皮膚疹のある生徒はもちろん、周辺の生徒も皮膚科受診させる⑤感染が判明した場合、試合だけでなく練習も休ませる。